



2008～2009年度テーマ Make Dreams Real — 夢をかたちに —
2008～2009年度 R.I.会長 李東建 (韓国 ソウル漢江RC)

佐世保ロータリークラブ 会長・遠田 公夫 幹事・木村 公康
事務所・佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323
例会場・佐世保玉屋8階 (毎週水曜日) TEL 0956-23-8181
http://www.sasebo-rc.jp/ E-mail:src@circus.ocn.ne.jp

平成 20 年 10 月 22 日

第 2,862 回例会

NO 16

《本日》会員数 81 名 (出席免除会員 23 名) ・出席 43 名 ・免除者出席 12 名 ・欠席 15 名 ・ビジター 0 名 ・出席率 67.90 %

《前々回》会員数 81 名 (出席免除会員 23 名) ・出席 48 名 ・メークアップ 9 名 修正出席率 98.53 %

会長挨拶

会長 遠田 公夫 君

本日は、ジェームスさんをはじめ、多くの日米協力センターのお客様がお見えでございます。英語のスピーチですが、時間の関係もあり、お手元に翻訳要旨を配っております。戦後の日米同盟が日本の国防に果たしてきた役割をお話し頂きますので、過日のキャプテン、マーチンのお話とオーバーラップさせながらお聞きます。それにしても、充実した多種多様の卓話を準備頂いているプログラム委員会、中川内委員長、西村副委員長をはじめ、関係者に感謝申し上げます。

さて、去る10月19日(日)は、地区委員会主催の職業奉仕委員会セミナーに、円田職業奉仕委員長共々、参加して参りました。内容は、ガバナー方針の「ロータリーで心を耕そう、道徳で心を育てよう」というテーマで、パストガバナーの栗林英雄さんが職業奉仕を通してこのテーマを実践しようと、著名な経済人の職業奉仕・社会貢献の実例を元に熱く語られました。ロータリアンは、倫理的に方向を誤らない経営が大切と指導を頂きました事を報告致します。

次に、私共、団塊世代が始めた地域活性化の為の、よさこいさせば祭りがいよいよ24日

から3日間、開催されます。今年は、史上最多のチーム数になりましたが、一方で交通渋滞を引き起こしていた国道会場を中止し、時代のニーズに対応すると共に、低調な経済環境が故に資金調達にも厳しいものがあり、経費を徹底的に圧縮し、身の丈に合った予算規模に縮小しました。

食品業界、医療や衣裳・化粧品、飲食店やエネルギー業界、さらにホテルや土産品、テント、給排水衛生、リース業など多岐にわたる経済波及効果は、20億円以上と報道されております。今年で、団塊世代は退き、来年からは次世代型の新しいよさこいに生まれ変わりますので、引き続き応援をお願いし挨拶と致します。会員の皆様のご支援に感謝致します。どうぞ、ご家族で近場の会場にお越しください。

例会記録

○ロータリーソング「それでこそロータリー」

○卓話者

ジェームス・アワー 様

ヴァンダービルト大学教授

日米協会センター長

ジュディー・アワー 様

ご夫人

トレイシー・テイラー 様

在福岡アメリカ領事館

広報担当領事兼福岡アメリカンセンター館長

宮石 建治様
在福岡アメリカ領事館
広報部/福岡アメリカンセンター広報企画官
高森 直史様 海軍料理研究家
二瀬 亜由様 (高森様のお嬢様)

児玉 孝雄・美和子様ご夫妻 (22日)
佐々木秀也・美智子様ご夫妻 (23日)



幹事報告

幹事 木村 公康 君

1. 第2740地区ガバナー 鈴木 泰彦 君
地区57クラブ公式訪問終了お礼状

2. 地区国際青少年交換委員長 益田 荘一 君

国際青少年交換学生再募集について
再募集締め切り日 11月17日(月)

3. 佐世保地方総監部広報係
機関紙「西海」が届いております。

委員会報告

■職業奉仕委員会 委員長 富永 雅弘 君
職場訪問のご案内

本日、職場訪問となっております。参加よろしくお願ひします。



日時/10月22日(水)例会終了後
石井海陸興業前出発
場所/三川内焼伝統産業会館

慶 祝

親睦活動委員会 児玉 孝雄 君

○結婚記念月のお祝い

井上 齊爾・三穂 様ご夫妻 (1日)
西村正一郎・美佐子様ご夫妻 (1日)
田川 邦男・優子 様ご夫妻 (3日)
古賀 巖・良子 様ご夫妻 (6日)
佐保 榮・三枝子様ご夫妻 (10日)
山下 登・英子 様ご夫妻 (12日)
小川 洋・久民子様ご夫妻 (18日)
有蘭 良太・香津美様ご夫妻 (21日)

ニコニコボックス

親睦活動委員会 池田 誠 君

遠田 公夫 会長

James, welcome to Sasebo Rotary club. We all look forward to your speech which helps us mutual understanding of both countries.

ジェームス・アワー様

It is Great honor to be here.

遠田 公夫 会長、木村 公康 幹事
松尾 文隆 副幹事、森 信正 君
西村正一郎 君、米倉洋一郎 君
松尾 慶一 君、才木 邦夫 君
菅沼宏比古 君、安部 直樹 君
田川 邦男 君、山縣 義道 君
藤井 隆 君、円田 三郎 君
池田 誠 君、山下 登 君
児玉 孝雄 君、中島 祥一 君
長島 正 君、増本 一也 君
斉藤 宏隆 君、飯田 満治 君
富永 雅弘 君、芹野 隆英 君
井手 常博 君、川富 正弘 君
福田 金治 君、玉野 哲雄 君
古賀 巖 君、小川 洋 君
吉富 誠也 君、高田 俊夫 君
梅村 良輔 君、田中 龍治 君
山下 尚登 君、鬼木 和夫 君
立石 徳雄 君、佐々木秀也 君

我がクラブ会員の辻 昌宏さんが商工会議

結婚して5年以上も子供に恵まれなかった妻と私は、養子を1人か2人もらうことを決めました。私はワシントンDCの米国国防総省で働いていたので、日本人の子供を養子に迎えるチャンスはないだろうと思っていました。ところが、何と1983年、神様は私たち夫婦に生まれて3ヵ月の男の子をくださったのです。母親は五島列島の出身でしたが、当時その子供を育てることが出来ない事情がありました。

フランシス・悌一郎・アワーは、1549年に九州に到着したイエズス会宣教師のフランシスコ・ザビエルと、中村「悌」次と内田「一」臣という2名の海上幕僚長の名前をとって命名されました。悌ちゃんは現在25歳で、バイオリン演奏と鈴木式バイオリン指導法で修士を取得したばかりです。将来、彼が有名なバイオリニストになるかどうかはわかりませんが、日本人の師、鈴木慎一先生の指導法に従って、たくさんの子供がバイオリンを愛し、練習に励むように指導するだろうと確信しています。

1963年に初めて佐世保に来て以来、私はマサチューセッツ州ボストンにある大学院の2年生だった1969年を除いて、少なくとも毎年1回は日本へ来ています。日本は仕事の上でも個人的にも、私に非常に深い影響を与えてくれました。私はこのことに心から感謝しています。

佐世保は親米海軍の町ですから、多分、以下のことは言う必要がないこと、あるいは言うべきではないことかもしれません。日米関係および海上自衛隊と米海軍をこれまでずっと支持してくださった佐世保市民の気持ちを傷つけるつもりは全くないのですが、私は、海上自衛隊と在日米海軍に対する最近のいくつかの批判事項を見ていると、いささか心配になってくるのです。そこで、日米両国の「ネービー対ネービー」の関係に、日本最強のご支援をいただいている佐世保の皆さんへ、日米同盟への日本の支持を先導する立場を続けて欲しいと願って次のことを申し上げます。

米国と同様、日米同盟への日本の支持は依然として強いと思いますが、ここ1年ばかりの間、米国で日本の報道を読むと、日本人の中には日米間に同盟が存在する理由や、日米同

盟の主な利点を忘れている人がいるような印象を受けます。それどころか、報道解説者のなかには海上自衛隊や米海軍があたかも有害であるかのごとく批判する人もいます。

私が意味するのは今年、以下の一連の事件のあとで見たコメントのことです。それは、海上自衛隊の護衛艦による日本の小型漁船との衝突事故、海上自衛隊護衛艦および米海軍空母ジョージワシントンの火災、2006年から2008年の間に佐世保、横須賀、沖縄に立ち寄った原子力潜水艦ヒューストンによる人体や環境に影響を与えない程度の微量の冷却水漏れなどの事件です。

私が国防総省の日本部長だった1979年から1988年までの10年間に、日本から多くの親米派の訪問者を迎えました。その中には、私が国防長官のもとへ案内した佐世保市長のようなVIPによる訪問も何度かありました。また、時折、「ライジング・サン」と言う意味の名前の大新聞社の記者や、一度ですが共産党の衆議院議員もいました。必ずしも意見が合うとは限らない人でも、私は訪問客を迎えるのをいつも嬉しく思いました。

何人かの記者やこの共産党議員には何か共通したものがあるように感じました。日米同盟は米国には良いが、日本には危険だから不均衡であるという考えです。私はこのような意見に驚いたので、そう考える理由は何か、と尋ねました。共産党議員は、在日米軍基地の存在のせいで、日本はソ連の標的になると言いました。「ライジング・サン」新聞がよく特別な言い回しをします。それは、日米同盟により「日本が米国の国際戦略に組み込まれる」というものです。

これらの人々の言うことはわかりますが、私は日米同盟を詫びることはしませんでした。同盟のせいで日本が標的になるという意見は極めて少数の非現実的見解であり、大部分の日本国民と政府は認めない見解だと思うと述べました。

日本の責任ではないとはいえ、日本は、冷戦中、ソ連の太平洋艦隊の本拠地ウラジオストックにとっても近い場所に位置していました。

ソ連は、北海道付近の日本の島々を不法に占領し、日本よりはるかに強力な海軍空軍を有する核武装国となりました。1970年以来、日本はいつでも日米間の安全保障関係をやめて、自国による安全保障を追及することが可能でした。しかし、日本が米国との同盟で得る利益は、日本が、米国という安全保障のパートナーなしで行く場合にさらされるであろう危険より、はるかに大きいものだと思うと言いました。

私は今日、佐世保の海上自衛隊員がインド洋上に赴き、国際テロとの戦いに従事する米国やその他の国々の艦船への給油活動を手伝っていると強く確信しています。2004年から2006年までの間、陸上自衛隊員がイラクのサマーワで道路の修理を始めとする人道復興支援に従事しました。そして先月まで航空自衛隊員がイラクへ支援物資を運んでいました。こうした活動は非常に重要で、テロと戦っている米国を始めとした多くの国々からとても高い評価を受けています。

しかしながら、私の意見では、自衛隊の歴史において、2001年以來のこうした活動は最重要なものではありません。冷戦期の最後10年ほどの間、ソ連は太平洋艦隊だけでも潜水艦100隻を持ちながら、政治的優位を得ることが出来ませんでした。特に、佐世保の海上自衛隊の駆逐艦（米国第7艦隊の駆逐艦と活動）や、鹿屋をはじめとするその他の日本の航空基地の自衛隊P3C対潜哨戒機のパイロットや航空機搭乗員（岩国、沖縄、その他の基地にいる自衛隊より少数の米海軍P3C対潜哨戒機と一緒に日夜活動）の努力によるものです。ソ連の潜水艦の多くは原子力潜水艦であり、核ミサイルを搭載していました。特に日本の対潜駆逐艦と海上自衛隊航空部隊は、冷戦中にソ連への抑止力となって日米の勝利を導いたにも拘わらず、どこからもしかるべき称賛を受けない英雄でした。

冷戦が終結し、ソ連は少なくとも一時的には脅威ではなくなりました。でも、ヨーロッパの米国軍は、冷戦時の3分の1以下に縮小されたのに、ソ連崩壊後のアジアでは、なぜそれが縮小されなかったのでしょうか。その理由は、ソ連の通常兵力のほとんどがアジアより

もヨーロッパに駐留していたからであり、また、ソ連の力が縮小された後も、日本に近い北朝鮮と中国という共産2国がまだ確固と存在し、日本や米国とは全く違う価値体系を作り上げているからです。

自由のある国では、新聞が、事故、火災、などの記事を書くことの自由があり、戦略に関する問題について否定的、かつ少数による意見を聞くことも可能です。でも、こうした意見は次のことに気をつけて、バランスが取られるべきです。まず、日米同盟の真の目的を心に刻みつけておくことです。そして、日本のどこへでも攻撃が可能な200基もの北朝鮮のミサイルに対して、日本は同盟なしで安全なのかを考えるべきです。また、もし、中国が日本は「中国が統治する領地」から離れているべきだという最後通告を発して、尖閣諸島は自分たちの領土であると主張すると決めた場合、日本は同盟なしで尖閣諸島を守ることができるのかを考えるべきです。「中国が統治する領地」というのは中国が台湾を指して呼ぶときに使います。中国はその台湾を台湾海峡に大規模なミサイル演習を行って軍事的に威嚇しました。

私は北京で行われた今年のオリンピックを、1964年の東京オリンピックのときと同じように、とても興味を持って眺めました。1964年、日本は経済的に強力な民主主義国として出現したことを示し、テレビで観戦した人々だけでなく、オリンピックに参加した全ての選手をも奮い立たせました。北京オリンピックを見ていて、私は、中国はその偉業を誇示するだけでなく、多くの中国国民には無関係で、オリンピックでは半分ほどの席しか埋まらなかったディズニーランドのようなスタジアムを作り上げるために、新興中の国が多大な費用と努力を使い過ぎたという印象を受けました。日本では何が報道されたのかよくわかりませんが、米国の報道陣の大部分が、ジャーナリストの報道の自由、中国人が見てもらいたいと思う自由、及びその他の民主化の手段について、中国が約束したのは主に紙上での約束であり、中国政府はその約束のほとんどを無視したと感じました。

私は北京オリンピックに感心しましたが、

観戦しながら、中国人でなくて良かったという喜びの気持ちでいっぱいでした。東京オリンピックの後の私の気持ちとは全く逆でした。東京オリンピックは、日本がますます繁栄していく民主主義国であることを示しました。そして、私は訪問するたびに日本の繁栄を誇らしく感じます。米国は私が最も好きな国ですが、日本は間違いなくその次に私が好きな国です。

今日ここでお話できる機会をくださった佐世保ロータリークラブの皆様にご心から感謝申し上げます。それとともに、次の3点をお願いしたいと思うのです。それは、まず、佐世保の皆様がこれからも引き続き日米2国間の強い絆を支援して下さることです。そして、これからも太平洋の繁栄を守るために、西太平洋のシーレーンがいつでも通行可能であるように、日米両国の有能で強力なネービーを維持することの必要性を奨励し続けて下さること。最後に、日本国民が国内でも海外でも、テロをはじめとする安全や幸せを脅かすものから守られるために、日本が必要な責任を果たせるよう、日本の政治家に働きかけて下さることです。

私が米国で日米同盟について語るとき、日本のどこの街が好きかという質問をよく受けます。京都、箱根、宮島、高野山のように、訪れるのにすばらしい所はたくさんありますが、「私は『九州男児』であり、佐世保が私の一番好きな所だ。」と答えます。佐世保は、私を日本と佐世保市民に引き合わせてくれた街であり、感謝してもしきれないのです。



職 場 訪 問 三川内焼伝統産業会館



* 次回例会予告 *

- 10月29日 休会
- 11月5日 佐世保海上保安部 部長兼佐世保港長
渡邊 晃久 様
「創設60周年を迎えた海上保安部」

(今週の担当 高田 俊夫)

クラブ会報委員会

委員 長	高田 俊夫	委 員	田中 龍治・原口 増穂
副委員長	円田 浩司		才木 邦夫